

農業生産法人「株式会社とぎま」が発足しました



外様平は飯山市の西北に位置し、関田山脈・長峰丘陵の間に広がる豊かな水田地帯です。恵まれた自然、誇れる歴史・文化を継承する地であり農村の原風景を今に伝える悠久のふるさとです。

私たちは、この恵まれた地域を最大限に活かし、農用地の一体的な管理・保全に努めながら、安心・安全・高品質な農産物を効率的に生産するとともにその付加価値を

高め、そして農村と都市との間で、モノの流通から人の交流を活性化させることで構成員ひいてはここに住む人々が豊かな暮らしを営むことが出来る魅力ある農村づくりを目指すことを基本方針に定めて、平成24年3月1日に「農業生産法人株式会社とぎま」として発足しました。

これまでの歴史を振り返れば、昭和47年ようやく当地にも国策として第2次農業構造改善事業が取り組まれました。それまでの1枚5アール前後の面積から1枚約30アール区画の圃場が完成しました。地区内においても従来の小型機械作業から大型機械作業でないと限られた農繁期での作業が間に合わなくなり

当時の外様農協を中心とした地区有識者会議で論議を重ね、管内の5集落は共同で春の育苗から秋の収穫作業まで一貫しての水稲栽培体系を

推進し実践してきました。大型機械作業は専属オペレーターを雇用することで、農業者は多品目(園芸・きのこ等)の収入確保が計られ、又経済成長期は第2種兼業で所得を増やすことができ約30年間程安定した共同作業経営が出来ました。

時代は平成になり、バブル経済が終焉し農産物の価格は異常に下がり、米価も右肩下がり曲線が続き、農業従事者も高齢期を迎え地域農業の維持・持続が困難な時代がそう遠くないのでは、農地の管理は誰がするのか等、管内での心配される意見もありました。そんな心配を踏まえて

水稲耕作組合協議会で数多くの会議を重ねやっと意見が集約されました。隣接地区の集落営農経営体を手本として平成19年11月25日に「地域ぐるみ型集落営農経営体」(任意組合)として外様営農組合が誕生しました。

発足時は共同経営面積約40ヘクタールでした。

その後、地域の方々のご理解を頂きながら75ヘクタールに拡大しました。

4年を経て、JA・市・県行政機関の助言・指導等、多大なご支援を賜り「農業は1人では出来ない、みんなで取り組むことが重要」と近い将来の地域農業の振興を模索し、夢のある農業を地区全体で取り組むこととして、今年の2月26日に設立総会を開催し水稲集積面積約75ヘクタール、5年後は100ヘクタールの目標を掲げて管内235名が参画して誕生しました。

将来は経営面積を集積(水田・畑)し、管内農地の有効活用を図り、地域農業担い手の雇用体制を整えた経営体として、次世代に受け継ぐことが出来るよう日々努めながら歩んでいきたいと考えています。

株式会社とぎま 小林隆行
(農業委員会 農政対策委員長)

「北信越ブロック女性農業委員交流研修会」が開催されました



3月1日に長野県女性農業委員の会等が主催し、「北信越ブロック女性農業委員交流研修会」が開催されました。この交流会は北信越ブロックの女性農業委員が一堂に会し、農業委員活動の実態や農業、農村の再生に向けた具体的な実践活動を共に学ぶためのもので、飯山市農業委員会より4名の女性農業委員が参加しました。

長野県は全農業委員1,394人の内、女性農業委員が157人でその割合が11.3%と栃木県と共にその割合が最も多い県となっています。

女性農業委員の登用促進は男女共同参画としてだけでなく、農業委員会の適切・円滑な運営、地域農業の発展のためにも大きな意義があります。

この交流研修会では石川県、富山県、新潟県、福井県、長野県の女性農業委員より事例発表がありました。

発表事例としては、女性の立場から食育を取り上げて発表した会が多く、石川県の白山市の農業委員会では若者の米離れが進まないように、女性農業委員が子供や保護者向けの寸劇を用いての食育の活動実施、また南魚沼市農業委員会では食育出前講座として、子供たちにご飯の味を忘れず大人になっても食べ続けてもらうため、子供たちとヌカ釜でご飯を炊く体験をし、その炊いたご飯をおにぎりで食べてもらう取り組み等の発表がありました。どの事例発表も女性ならではの視点で農業・農村の再生に向けてがんばっているのが印象的でした。

農業者の約半数は女性であり、農業者の声を代表する農業委員に多くの女性の登用が期待されています。

「北信州農業道場入門課終了式」が開催されました

3月19日に北信州農業道場入門課修了式が開催されました。この「北信州農業道場」とは意欲ある青年農業者を地域の中核的な担い手として育成していくため、中野以北の市町村、農業委員会、JA、県農政課、北信農業改良普及センター等が集まり、推進協議会を組織し運営しています。



研修風景

「北信農業道場」には「入門課」と「本科」があり、①入門課は期間1力年で概ね3年以内の新規就農者を対象として、スムーズな就農を支援するため基本的な知識や技術力を養成することを目的とし、②本科は2力年で地域の中核的農業経営者になってもらうため、先進的な技術や経営管理手法、幅広い視野と多面的なものを見方・考え方を養成することを目的としています。

今回、入門課を終了されたのは15人で、飯山市からは常盤の足立隆雄さんが「きのこコース」を修了されました。なお、本科は23年と24年の2力年をかけて開催

されており、現在9人(内飯山市から1人)が受講しています。これからの地域農業の担い手として頑張ってくださいと思います。

農業をする人の高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増加など「人と農地の問題」があり5年後、10年後の展望を描けない地域が増えている中で、国では今年度から新規施策として地域の中心経営体への農地集積等の支援、また新規就農者への支援が実施されます。

あしあと (3・4月の活動記録)

- 3/2 農地相談
- 9 役員会、認定農業者審査会
- 26 農業委員会、人・農地プラン説明会
- 27 飯山国営土地改良区通常総会
- 4/9 役員会 13 情報委員会
- 16～18 農業委員会研修視察
- 26 農業委員会、学習会

農業者年金を受給されている方へ 現況届の提出を忘れずに

現況届の用紙は5月末頃に、基金から直接、受給権者本人あてに送付されます。

現況届は6月1日から6月30日までに、市役所内の農業委員会へ提出してください。提出がない場合は年金の支払いが差し止められる場合がありますのでご注意ください。

シカク豆で知っていますか

熱帯アジア原産のマメ植物で、実の周辺に4枚の翼を付け切り口が四角いのでこの名がつく。日本では沖縄で栽培が多いが近年家庭菜園や直売所で人気がある。

生育適温は25度以上で高温ほど生育が旺盛になり、土地は選ばないが日当たりの良い圃場を選ぶ。蒔き時期は5月末～6月上旬頃。畝間は1.5m、株間は50cmで1箇所3粒を蒔く(ポット育苗も可)。病害虫はアブラムシが多少付くことがあるがほとんど防除は必要としない。

1ヶ月位でつるが延びてくるので支柱を立てる。短日性なので盆頃より生けり始め霜が降るまで収穫ができる。収穫は10～12cm程度の未熟の莢(サヤ)をとり、食べ方は軽く茹でてサラダや、てんぷらなどがおすすすめであるが、クセがないので色々な料理に利用できる。

